故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

高岡の育ての親 前田 利常(1593～1658)

前田利長は「高岡の生みの親」ですが、「育ての親」は利常です。

利常は初代利家の4男として金沢城で生まれました。母は側室・千世(寿福院)。利長の31歳下の弟です。幼名・猿千代、のち利光、1629年利常と改名。幼少期は守山城の城代・前田長種と幸(利家長女)夫妻に養育されます。1598年、生涯一度の父子の対面の際、利家は「眼力強くたくましい」と利常を評しました。1600年9月、浅井畷の戦い(小松市)の後、小松城の丹羽長重の人質となります。この時、利長は利常を後継者と定めました。翌年、徳川秀忠の娘・珠姫と結婚しました(子供は3男5女)。

1605年4月、家康の伏見城で元服、同年7月家督を継ぎました。1614年の大坂冬の陣に出陣し、翌年の同夏の陣では二番手柄を立てました。利常は優れた手腕で領国整備に尽くしました。特に利長が遺した高岡を城下町から商工都市へと転換させ、保護奨励しました。

利常画像(那谷寺蔵、高岡市立博物館提供)

1639年、小松に隠居(22.5万石)。次男利次に富山藩10万石、三男利治に大聖寺藩7万石を分封し、金沢本藩の光高は80万石としました。1645年、4代光高が31歳で急死。翌年(利長33回忌)、利常は利長墓所を造営。1652～54年頃、利長の菩提寺・瑞龍寺を整備拡張しました。1651～56年、農財政改革「改作法」を実施。1658年、5代綱紀と保科正之(秀忠庶子)娘の婚姻を見届け、10月小松にて死去しました。

(仁ヶ竹主幹)

問合先　博物館 TEL 20-1572